

## 中学校の部 最優秀賞

四国防災八十八話 第18話 寅年の水

「寅年の水」を読んで

一本松中学校 1年 <sup>しみず</sup>清水 すみれ

「家が壊れても、最後まで生きることを諦めぬこと」—私は、それが一番大切なことだと思います。たとえ土砂崩れや津波によって家が壊れたとしても、大事な「もの」を失ったとしても、生きることを諦めてはいけません。「もの」は人間の「命」には代えられないのです。

これは、洪水で大きな家が壊れてしまっても諦めず、八人が八畳の天井板に乗り、約四キロメートルも流されたものの助かったという話です。共に流された八人は、年齢も性別もバラバラでしたが、「生きたい」という同じ思いを持っていました。その思いだけで一つになり助かることができたことは、本当にすごいと思います。そして、何より「生きたい」と願い、諦めないことが大切だと改めて感じました。

今後三十年以内の南海トラフ巨大地震の発生確率は非常に高いと言われていきます。この話は洪水についてでしたが、地震でも津波でも同じことが言えると思います。私は、家族で一度、地震が起きたときのことについて話し合ったことがあります。避難する場所や家の中で一番安全な場所、避難用持ち出し袋の中身など様々なことを話し合いました。その話し合いの中で私が両親に言われて心に残っている言葉があります。それは、

「とにかく生きろ。」

「必ず私たちが迎えに行くから待っていて。」

という言葉です。私は、それを聞いてとても安心しました。地震はどれだけ願っても止められません。地震が起こる未来を変えることもできません。だから、備えておくことがとても大切です。家族と話し合ったり家具を固定したりすることが、自分の命を守ることに繋がります。備えをして、生きることを諦めないということを心に留め生活していきたいと思います。